

シンポジウム1

第53回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会での高気圧酸素治療時の危機管理に関する企画に関して

堂籠 博

米盛病院 救急科

1. シンポジウム-Iの企画について

高気圧酸素治療(以下HBO)は特殊な状況下で実施される治療法である。専用の装置での閉鎖空間に対象症例を収容した状況で、高気圧環境下での高濃度酸素投与が実施される。このような状況から、危機管理の観点からは以下の項目への対応が必要となる。

1-1) 一定時間閉鎖空間に収容しての治療であり、その間は直接的な診察や即座の処置が行えない若しくは行いにくい状況となる。

1-2) 高気圧環境での治療となり、圧損傷などの致死的ともなりえる状況が発生する可能性がある。

加えて、日本国内では、その使用装置の多くが第1種装置で占めている現状や、HBO事体の特殊性とHBOの本邦医療での位置付け等を考えると、急変時対応で注意すべき問題点としては、以下の各点が考えられると思われる。

1-3) HBO実施では医師の直接の立ち合いが少なく、HBO実施の多くが技士(または看護師)のみで行われている可能性がある。その為、即座の対応においてはさらに不利となる可能性がある。

1-4) HBO中の急変発生への的確な判断自体が難しい(モニタリングが難しい)。

1-5) 急変時対応をどのように行うかのコンセンサスが得られているかどうか未確定な部分も存在する。

1-6) 医師自体も、この治療に経験を積む機会に乏しい現状の存在がうかがわれる。

このような特殊性を持ったHBOの状況を鑑みて、本学術総会でのセッションで「高気圧酸素治療(HBO)実施中の危機管理」についての協議することとなった。そして、当日のセッションでは、今回の各演題の発表を踏まえた上でその論点をさらに絞って、演者および学会参加者とともに議論を行った。以下の内容を今回の議論のポイントとした(各演題の内容は各演題のプロシーディングを参考されたし)。

2. 議論のポイントと考えた各点

2-1) HBOに関しては、医療従事者の間でも認知度が低い点

医学部でのHBOに関する教育内容や、技士関連での教育システムを考えると、HBOに関する教育体制が十分でない状況が推測される。

2-2) HBO実施時の医師の常時立ち合いがほぼ期待できない点。

2-3) HBOでの特殊環境:

HBOでは特殊な装置に収容しての高気圧環境かつ高濃度酸素投与条件下での治療であり、HBO中の急変への対応に極端な制約がある点がある。

2-4) HBOの再開についての点:

これまで全国のHBO装置は減少傾向が続いていた。その中で今回、診療報酬改定があり、経験値が少ない施設でのHBO再開・新規開始も予想される。

3. 議論された内容について(その一部を以下に記載した)

3-1) 卒前教育の充実について:

技士での卒前教育へのより積極的なアプローチ(HBOについてのDVD作成)が実行中である。

3-2) 卒後教育について:

HBOに関してより実践的な内容の講習会の可能性について議論あり。

3-3) HBO実施前の評価について:

リスクの評価をより密に行えないか(発生率を下げる工夫)。

3-4) 急変発生時での対応を円滑にするためのシステム作りと定期的な訓練:

訓練を行うことで、危機管理についてより深く理解できることもあるとの意見も出された。

3-5) マニュアル等の作成について:

学会主体としてその作成を望みたいとする意見もあった。学会としての実施計画の意見もあり、今後の方向性もうかがわれた。

このような議論の中では、合併症の発生率の問題や、実践的な内容のみでの講習会受講への弊害の可能性を懸念する意見も出された。

以上、本セッションの内容の概要を記載した。今回のセッション開催がHBOの危機管理についてさらに前進する何らかの礎の一つとなればと期待する。